Richard Sennett, *Flesh and Stone*

その６：Community
ジャン・ド・シェルのパリ

2008年度大学院講義 後期

鈴木繁夫

都市の空気は自由にする

- ローマ型都市の衰退
  - 500-1000年：
    - 農業経済に戻る→欠乏と恐怖
    - 防壁のない村落、防壁のある修道院
  - 900年代末：
    - 封建制の確立（奉仕　vs　保護）
    - 城塞および都市の建築
- パリ
  - 1250年：ノートルダム司教座聖堂の屹立
  - 市民は、商業の勝利として礼讃

聖ルイの聖書

- 1250年完成
  - 学術・芸術が地方から都市に移動

- 都市の商業・技術活動は人間にふさわしい
  - 伝統的使役から解放
  - 所有権の保証
    - **個人には「所有物への権利があり、それは罰則でないかぎり、上からの権威によって干渉されることがない。なぜなら所有物は個人の努力の賜だからだ」（ジーン・ド・パリ Jean de Paris)**

三つ巴

- 政治
  - 封建制による個人資産の収奪
- 宗教
  - 個人の所有や思想を異端視
- 都市経済人
  - 所有を主張

〇職務による階層化
×能力による階層化

科学人文主義:
知識を人間社会に体系的にあてはめる

経済的自由 vs 宗教的日常規範

- 都市商業者
  - 移動とリスクをとる→利益を手に入れる

「都市の空気は自由にする」

- 宗教者
  - 「~~キリストの異質な体~~」
  - 誰でも苦しみは了解可能→**「キリストに倣いて」**
    - 同情 →syncope

      人間の器官は互いに結びつき、相互に反応し合う
    - 共同体→見ず知らずの弱者までも歓待する場

同情する身体

- アッシジの聖フランチェスコ
  - 人間の身体の方にこそ、社会の規則・権利を測る尺度がある。

    →あることに痛みを感じるなら、そのことは不正だから。

    ●愛が欠落している商取引へのアンチテーゼ

    →身体への拷問は悪魔を苦しめるため

ガレノス『医術』

- ガレノス(130?-199?)
  - イスラムの注釈版のラテン語訳
    1280年　ヨーロッパ諸大学
  - 四性説→身体を心、職業に結びつける
    - 短気：choler =hot & dry

      ↓

      同情＝憂うつ　だからアンバランスな身体

Humour	Season	Element	Organ	Qualities	Ancient name	Modern	MBTI	Ancient characteristics
Blood	spring	air	liver	warm & moist	sanguine	artisan	SP	courageous, hopeful, amorous
Yellow bile	summer	fire	gall bladder	warm & dry	choleric	idealist	NF	easily angered, bad tempered
Black bile	autumn	earth	spleen	cold & dry	melancholic	guardian	SJ	despondent, sleepless, irritable
Phlegm	winter	water	brain/lungs	cold & moist	phlegmatic	rational	NT	calm, unemotional

アンリ・ド・モンドヴィル

- フランスの外科医　Henri de Mondeville(1260 - 1320)
  - Syncope
  - (1)「傷を受けた器官にたいして他の器官たちが哀れみ、そこを助けるために、自分たちの持てる精気や暖を出す」
  - (2)「シンコペは、ぞっとする外科手術を目撃した健康な人の場合には、次のようにして起こる。まず感じた恐怖が［健康人の］心臓に痛みを与える。すると［健康人の］精気たちが一般集会のようなものにいっせいに参じ、集団で刺激を受けるので、［手術者の］心臓の活力は救われる」
  - 人は「メンバーである近隣者にたいして友愛を感じる。というのも私たちは私たちの身体である神のメンバーだからだ」（**『パリの家事』Le Ménagier De Paris**）

抱摂共同体 vs 排除共同体

- ソールズベリーのジョン 「どこに帰属しているのか」
  - 「為政者は、…善良なる人々の安全が確保されるまで、徳をこめた残虐さによって、悪を攻撃してよい」（*Policraticus*）

- ド・モンドヴィル 「他者にどう対するのか」

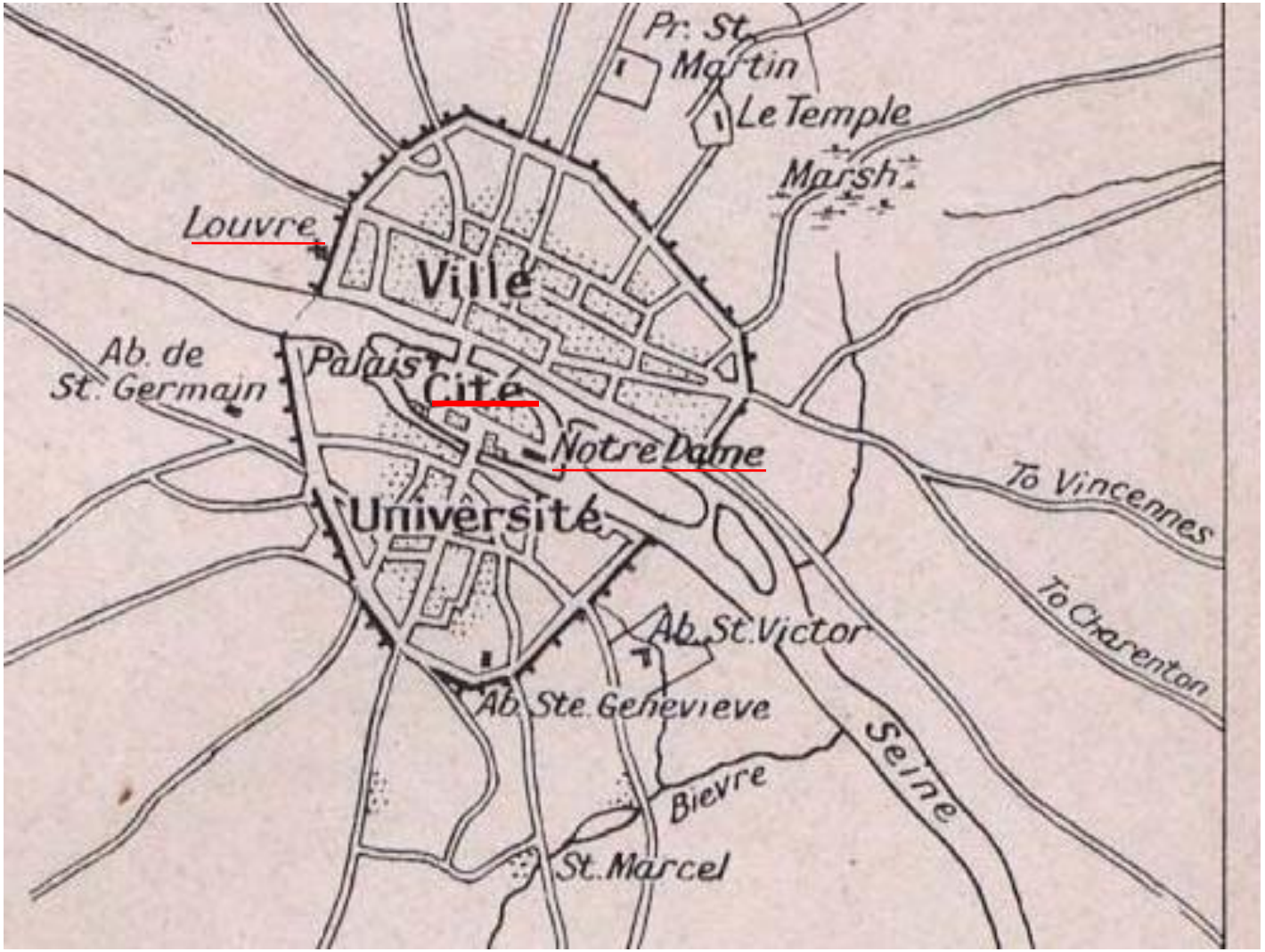
  参考 **森岡正博 「無痛文明」**

  - 「肉体的精神的な苦痛から逃れ、快適さを維持しようとする「身体の欲望」を優先する社会のシステム」
  - 「人は絶望の中で迷い、苦しむが、それを乗り越えることで、新しい自分の可能性を発見したり、成長を感じたりする。こうした体験こそが「『生きていてよかった』と心から思う、身体ではない生命としての喜びにつながる」→出生前診断

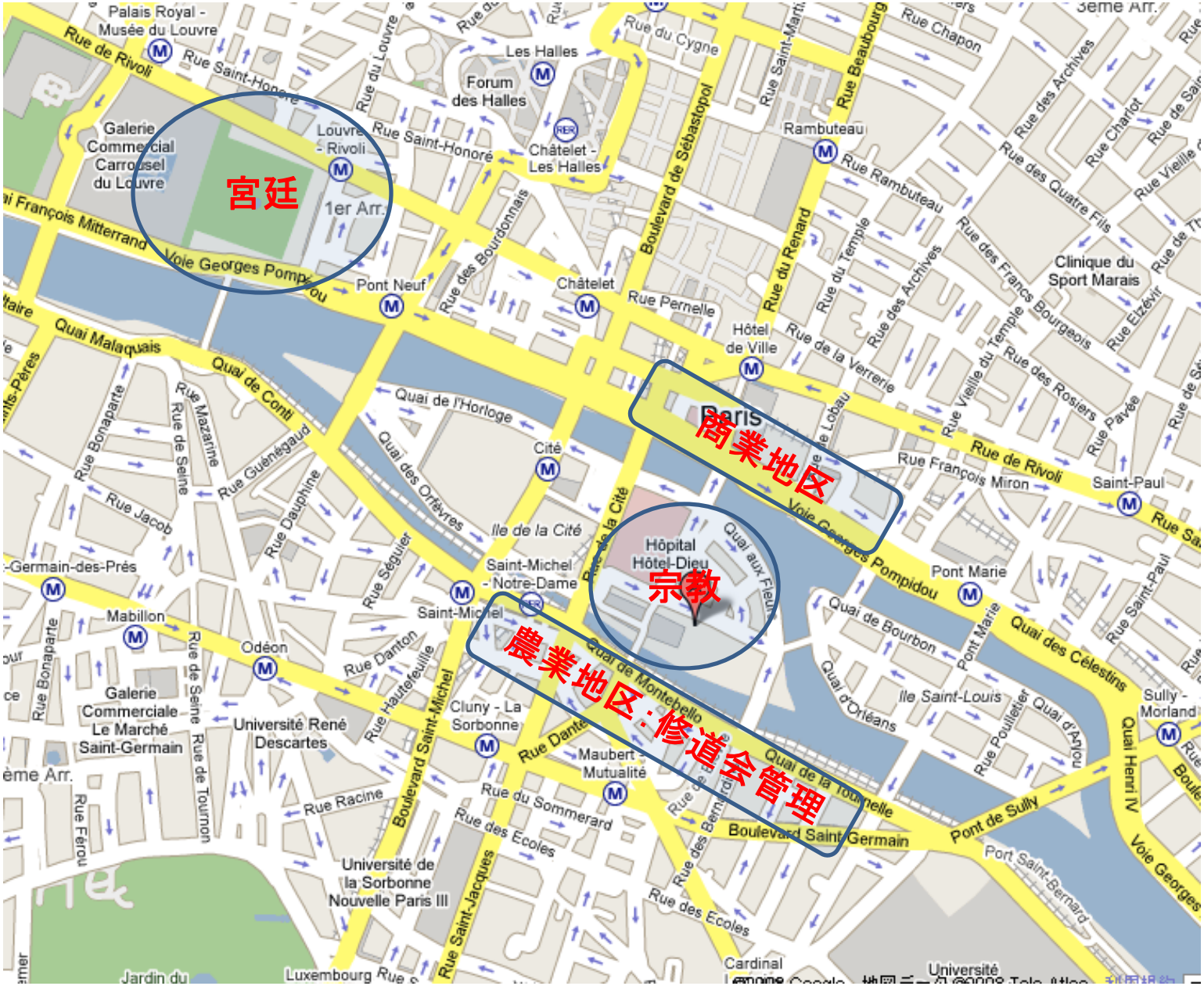
はぐくみ

- 女性優位化
  - 「はぐくむ」＝
    母親の授乳
- 死の共有化
  - 威厳ある
    メランコリア

キリスト教共同体



Medieval Paris


宮廷
商業地区
宗教
農業地区：修道会管理
Palais Royal - Musée du Louvre
Rue de Rivoli
Rue Saint-Honoré
Galerie Commercial Carrousel du Louvre
Louvre - Rivoli
1er Arr.
Les Halles
Forum des Halles
Châtelet - Les Halles
Rue du Cygne
Rue Chapon
3ème Arr.
Rue Beaubourg
Rue Saint-Martin
Boulevard de Sébastopol
Rambuteau
Rue Rambuteau
Rue du Renard
Rue des Archives
Rue des Quatre Fils
Rue Charlot
Rue des Francs Bourgeois
Clinique du Sport Marais
Rue Elzévir
Rue Vieille du Temple
Rue du Temple
Rue de la Verrerie
Rue des Rosiers
Rue Pavée
Rue François Miron
Saint-Paul
Rue de Rivoli
Voie Georges Pompidou
Pont Neuf
Rue des Bourdonnais
Châtelet
Rue Pernelle
Hôtel de Ville
Quai François Mitterrand
Quai Malaquais
Quai de Conti
Quai de l'Horloge
Paris
Cité
Quai des Orfèvres
Ile de la Cité
Rue de la Cité
Hôpital Hôtel-Dieu
Quai aux Fleurs
Saint-Michel - Notre-Dame
Saint-Michel
Pont Marie
Quai de Bourbon
Quai des Célestins
Ile Saint-Louis
Quai d'Orléans
Quai d'Anjou
Rue Poulletier
Sully - Morland
Quai Henri IV
Pont de Sully
Port Saint-Bernard
Voie Georges
Rue Bonaparte
Rue Mazarine
Rue de Seine
Rue Guénégaud
Rue Dauphine
Rue Jacob
Rue Séguier
Rue Danton
Rue Hautefeuille
Boulevard Saint-Michel
Rue Dante
Rue Racine
Rue du Sommerard
Rue des Ecoles
Rue Saint-Jacques
Rue Férou
Rue de Tournon
Mabillon
Odéon
Galerie Commerciale Le Marché Saint-Germain
Université René Descartes
Cluny - La Sorbonne
Maubert - Mutualité
Quai de Montebello
Quai de la Tournelle
Boulevard Saint Germain
Université de la Sorbonne Nouvelle Paris III
Jardin du
Luxembourg
Cardinal
Université

聴罪司祭

- 聴罪司祭
  - 密な交渉→罪の査定
  - 司祭は同情を示す＋告解はメランコリア
  - 心の開陳、内発性　~~形式~~→信仰へ能動的参加
  - 無名性→話を聞く

施し物分配吏

- 従来の布施
  - どちら側も感情がともなわない＋永遠の安息獲得手段
- 俗人の施し物分配吏
  - 都市貧民を救うための路上での心のこもった活動
  - 都市貧民による教会参加
  - 教会の庭が都市貧民の居所

魂にことを考える場

庭と庭師

- 庭
  - 都会の雑踏のなかで、静謐な場
- 庭師
  - あずま屋（陽よけ→孤独）
  - 迷宮（心の中心に神を見いだす→一時の安息）
  - 池（鏡に映す自己反省の姿＋ハーブ）

キリスト教の労働

- 霊的聖所
  - 砂漠→修道院の共同生活「働き、祈れ」
  - 労働　＝　庭仕事　＝　楽園の二人の作業
  - 霊的規律：一生懸命働くことが
    徳の高さとなる
    共同体への貢献